

NII News

No.18

September 2003

平成15年9月

国立情報学研究所ニュース 第18号



SUPER SINET 研究紹介 4

バイオインフォマティクスにおける スーパーSINET

(国立遺伝学研究所 館野 義男)

- 2 研究活動 NII情報学オープンフォーラム第2回(7月14日) PRIM and Prosper: 携帯電話を用いた個人間の関係の情報管理に関する研究 ICTからICAへ 情報とコミュニケーション活動支援に向けて / 多点入力デバイス(電子将棋盤)の研究 / 外国人研究員の紹介 / 2003年パビヨンセミナー開催
- 6 大学院教育 大学院生紹介
- 6 事業活動 NII-REO(NII電子ジャーナルリポジトリ)/ドイツ国立科学技術図書館長、東京ドイツ文化センター図書館長の来訪 / 韓国国立中央図書館からの来訪
- 8 トピックス 平成15年度 軽井沢土曜懇話会(7月26日)/平成15年度 NII市民講座「8語でつかむ情報学」(7月11日・8月25日)/トピックマップに関する特別講演会の開催 / メタデータ及びメタデータ・ハーベスティングに関する特別講演会の開催

HOT NEWS 「子ども霞が関見学デー」にNIIが出演 / 大学図書館等関連事業説明会(NII Library Week 2003)の開催について

NII掲示板 人事異動(平成15年8月) **お知らせ** 今後の研究会・シンポジウム・行事等の予定



SUPER SINET 研究紹介 ④

バイオインフォマティクスにおけるスーパーSINET



国立遺伝学研究所
生命情報・DDBJ研究センター 教授

舘野 義男

(たての よしお)

1978年テキサス大学生物医科学大学院卒業。Ph.D.取得。
1987年理学博士(東京都立大学) 理化学研究所を経て、
1988年国立遺伝学研究所助手、1990年同助教授、1994
年より現職。分子進化学の研究を進めると同時に、日本
DNAデータバンクという国際研究事業に従事。

ヒトを含む多くの生物の全ゲノムの配列が明らかになってきているが、バイオインフォマティクスはその配列解析ならびにデータベース化に大きな学術的貢献をしてきている。バイオインフォマティクスの歴史は未だ浅いが、その誕生ならびに発展は、次の2点に負うところが大きいと考えられる。一つは、DNA配列やタンパク配列に関するデータベースが国際的に整備されてきて、誰でも利用できるようになったこと、あと一つは、DNA配列やタンパク質配列それぞれの間の相同性を推定するアルゴリズムやソフトが種々考案・改良され、やはり誰でも使用できるようになったことである。つまり、自分が配列決定した未知遺伝子あるいはDNA配列の機能が、この2つを利用することによって解明あるいは推定することが可能になったのである。生物学のような実験科学では、仮説や推測は実験によって実証されるが、バイオインフォマティクスの発展によって、ある種の仮説や推測の実証には必ずしも実験を必要としなくなっている。例えば、新たに発見された遺伝子の配列が、機能既知の遺伝子の配列と90%以上の相同性があると示されれば、実験をしなくても、この遺伝子の機能を、高い確率で解明することができる。実は、ヒトゲノムの多くの遺伝子の機能はこのようなバイオインフォマティクス的な方法で解明あるいは推定されている。

バイオインフォマティクスは、生物学の多くの分野はもとより、病理、病原微生物探索・同定、治療法開発、創薬、品種改良、環境保全など多くの分野に貢献している。このため、欧米では、

コンピュータネットワークをバイオインフォマティクスの特にデータベースの利用に適用したデータグリッド構想が実現し稼働している。当遺伝子情報解析研究班では、スーパーSINETを基幹として、このようなデータグリッドを我が国にも実現し、バイオインフォマティクスの発展に貢献していきたい。我が国ならびにアジア地域には、バイオインフォマティクスが関連する分野には数十万の研究者がいると思われるので、アジア地域の研究者とも協力関係をもちながら、データグリッドの実現化を図りたい。対象とするデータは、DNA配列、タンパク質配列、遺伝子発現、タンパク質高次構造、代謝経路などである。

また、スーパーSINETの一環として、東大・医科学研究所と京大・化学研究所と当研究所の3者間に高速ネットワークが稼働しているが、これをさらに活用することによって、ゲノムからタンパク質、代謝経路にわたる分野で、我が国のバイオインフォマティクスの発展に貢献していきたい。

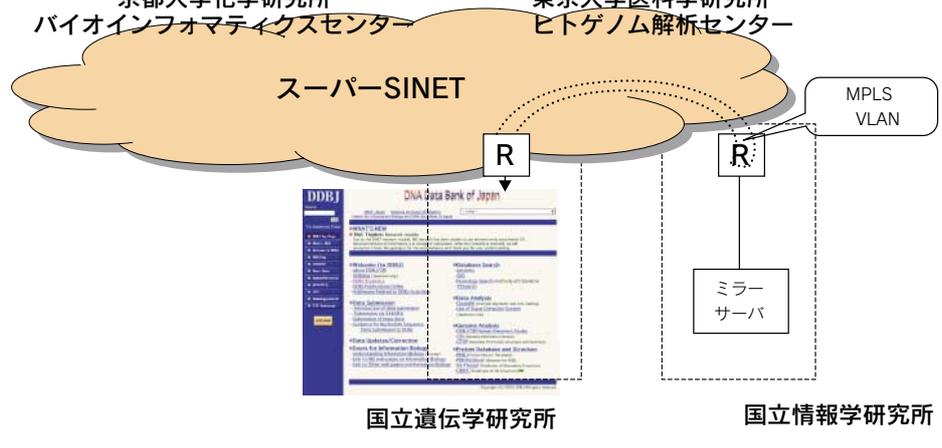
三極+NIIによる超高速ネットデータベースの運用



京都大学化学研究所
バイオインフォマティクスセンター



東京大学医科学研究所
ヒトゲノム解析センター



PRIM and Prosper: 携帯電話を用いた 個人間の関係の情報管理に関する研究



シンガポール国立情報学研究所 主任研究員

梁 文橋

(Leong Mun Kew)

シンガポールの国立研究所Institute for Infocomm Research(元Kent Ridge Digital Labs (KRDL))の主任研究員。セマンティクスを用いたテキスト及びマルチメディアの解析・内容理解に関する研究グループを主導している。情報検索、携帯と社会的な情報の管理、電子図書館、分散多言語検索システムなどの研究に関心を持っている。1995年にスタンフォード大学で博士号取得。関連分野における活発な著作・講演活動、国際ジャーナル

Information Processing & Managementの編集委員、複数の国際会議の組織委員長、運営委員を歴任。前職は、国立研究所KRDLの研究成果から起業したIT企業BIGontheNet Pte Ltdの副社長兼最高技術顧問。現在も同社の技術アドバイザーとして後進の指導にあたっている。

携帯電話は、母親より先よく知っている！人は、友達、家族、同僚など、なんらかの集団の一員として生活している。この講演では、私的または仕事の上での人間同士の社会的関係のモデル化と影響力が行使されるメカニズム、また、そのような人と人との関係の(携帯電話などによる)情報管理を体系化す

る方策に関する最近の研究を紹介した。講演は、次の3部からなる；まず、個人間の関係がどのように影響され、モデルとして定義されるシナリオを提示し、個人間関係管理における基本的な要素に関するいくつかの仮説を提案した。次に、人間関係の管理と影響力に関するエスノグラフィ的な調査を行い、携帯端末への革新的な応用となりうるシナリオと基本的な

特性を確認した。最後に、携帯端末を用いたやりとりは会話に似ており、Griceの対話の協調性原理に当てはめることができることを提案した。Griceの原理は携帯端末のシナリオに類似しており、携帯システムの設計の評価に有用であると思われる。

ICTからICAへ 情報とコミュニケーション活動支援に向けて



実証研究センター
共同研究企画推進室 教授

武田 英明

(たけだ ひであき)

1991年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。工学博士。奈良先端科学技術大学院大学を経て、2000年国立情報学研究所助教授。2003年より現職。知識共有システム、ロボティクス、設計学の研究に従事。

情報に関する活動(例えば収集など)やコミュニケーションに関する活動(他人とのコンタクトなど)は現代における人間の活動の中で非常に重要なものとなっている。情報科学の研究の対象は情報・コミュニケーション技術(Information Technologies: ITもしくはInformation and Communication Technologies: ICT)から情報・コミュニケーション活動(Information and Communication Activities)へ移行すべきであると考える。

本研究では、情報と人間関係の問題を明確にするために2層の拡張モデルを提案する。第1の層は情報の扱いに関

する3種の要素があり、それぞれ“Collect”、“Create”、“Donate”とする。これはユーザを中心とした視点から見た情報のライフサイクルである。情報はユーザによって収集され、それらの情報に基づいて新しい情報が創造される。そして新しい情報は社会に提供され、

将来の創造のために利用される。新たな情報が無から作り出されることは稀であり、多くの場合は既存の情報が下敷きとなる。第2の層はコミュニケーションの扱いに関する“Relate”、“Collaborate”、“Present”の3種の要素である。これも第1層と同様にユーザ中心のコミュニケーションプロセスであるといえる。ある人物が他の人々との関係を得て、新しい情報を生み出すために協調する。そして彼ら自身が新たな情報源として社会に対しその存在を表明する。

■ 多点入力デバイス(電子将棋盤)の研究

かれこれ5年くらい続けてきた研究だが、いつも表題で苦労する。コンピュータ用多点入力デバイスと言っても何のことかわかってもらえない。ところが実物を見せると、笑いながら、ああなるほど、そういうことですか、となる。それもそのはず、小学生に使わせる大きな将棋盤みたいなものとして作ったので、一見すればこれは何か、どう使うのか、たちどころにわかるのだ(右の写真参照)。

将棋盤を作りたいんです

研究を始めたのは5年前、当時同僚だった杉本雅則さん(現・東大)に、「大きな将棋盤のようなものを作りたいんです。小学生が上にいろいろなコマを乗せると、コンピュータはどこに何があるか、認識できる装置を作れませんか?」と相談を受けたのが始まりだ。事情を聞くと、次のようなことだった。

杉本さんの共同研究者に楠房子さん(多摩美術大学)がいて、小学校社会科の授業をコンピュータで補助するシステムを作ろうとしている。教室で子どもに、都市の要素の家や会社や公園を形どったコマを盤上に自由に置いてもらう。するとコンピュータがその街の風景を描画し、また街としての機能(人口、環境、産業)などの指数を計算して表示することで、よい街の特性とは何か、子どもに自然に学習させようという計画だった。わたしはそのような学習支援研究は素人だが、入力装置の設計には興味があったので、手伝いましょうということになった。以来、わたしたち3人の共同研究グループが続いている。

RFID技術に着目

盤の上に置いた物体の位置を読みとる入力装置は、以前から存在する。デジタルタイザートとかペンタブレットとかいうもので、盤の一点を指示すると、精度のよいものはミクロン単位でその位置の座標を教えてくれる。しかしこれは指示した一点だけのことで、将棋盤上のコマのように、多種多数の物体が同



平成15年度 子ども電が関見学デー(8月20・21日)に出品した
多点入力装置とコンピュータ画面

時に盤の上に乗っているとき、位置と種類を読み取ってくれるような装置は、それまでなかった。

開発は試行錯誤だった。盤の表面に電磁波を張っておいて、コマには特定周波数の電磁波に反応するようなコイル/コンデンサの共振回路を入れておけばどうだろうと、いろいろ実験するものの、うまく行かない。

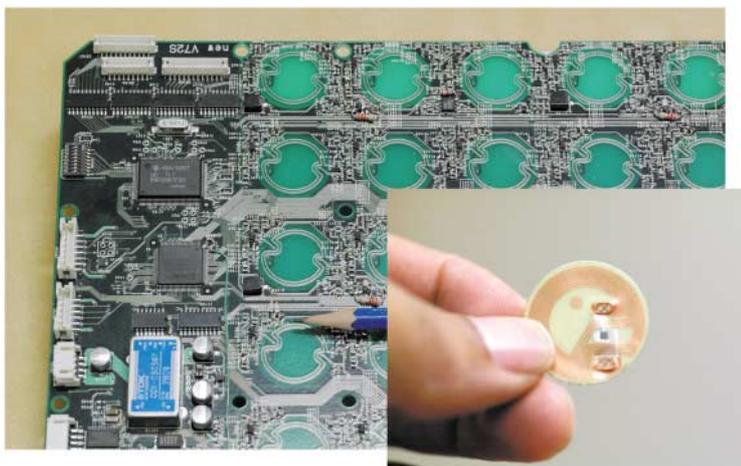
そこで思いついたのが、RFIDタグを使うことである。

RFIDは無線を使ったメモリー素子で、物理的に接続しなくても、アンテナコイルの上に置くだけで、メモリーに情報を読み書きすることができる。盤には多数のアンテナコイルを配列しておいて、またコマにはその種類を書き込んだRFIDを内蔵させておけば、盤に乗せた多数のコマの位置と種類を読み取ることができるだろう(左下の写真参照)。

RFIDは最近では定期券に応用されて、改札機の上にかざすだけで通過できる新型定期券、JRのSUICAに使われているので読者にもおなじみの技術だろう。また、IDはごく薄くできるので、商品に貼ってバーコードがわりに使えば、商品個々の生産から消費まで追跡できて、新しい流通社会ができるのではないかと、ユビキタス・コンピューティングというテーマでの研究も始まっている。

研究の発展

しかし、研究開始当時はまだ素子の誕生したばかりで、技術はできたものの、何に使おうか、というような状況だった。素子メーカーの一つであるオムロン社と、装置メーカーの東海ソフト社に協力を依頼し、小学校用の多点入力装置の原型を2ヶ月あまりで



RFIDタグ(右下)と装置基板のアンテナグリッド

作ってもらった。以来いろいろな改良を重ねて、現用機は4代目である。最初の不安定さも消えて、数日使いつづけても、子どもが手荒く扱っても大丈夫である。

夢は多くの学校の教育現場で使ってもらうことだが、そのためには安価にしなければと各種の技術開発を行ない、特許もいくつか取得した。手分けして国際会議等で多く発表したこともあり、このボードはけっこう有名になって、ヒューマンインタフェースの国際学会の基調講演を依頼されるまでになった。最初の「じゃあ、多点入力ボードの機構をちょっと考えてみましょうか」という安請け合いで始まった研究の展開としては意外なことであった。

マルチタレントの研究グループ

この研究の最大の面白さは、情報学研究所、大学の工学部、美術学校の学生という異なったタレントを持つグループの共同作業になっていることである。たとえば表示のプログラムを改良しよう、というような場面で、各者の判断基準はまるで違う。工学系は論理の単純性とか改良の容易性を重視するが、美術は常に美しさ優先だ。両者の議論はケンカになっておわることもあるが、時おり思いもかけなかった問題の解決が出てくる。このグループでの共同研究を、今後も続けていこうと思う理由である。

(情報メディア研究系統合メディア処理研究部門 教授 橋爪 宏達)



「子ども霞が関見学デー」にNIIが出展

(8月20日(水)~21日(木) 於:文部科学省別館)

「子ども霞が関見学デー」は、子どもたちに省庁等の施策に対する理解を深めてもらうことを目的に、夏休みに各省庁等一斉に実施しているもので、本研究所も今年度初めて2件出展した。小野教授のUNESCOとの共同プロジェクト「デジタル・シルクロード」と、橋爪教授の「さわって楽しむコンピュータ」である。前者は、平成15年世界遺産に指定されたパーミヤンの危機にさらされている文化遺産をデジタル技術を用いて蘇らせる試みを、デモのほか、幅4mのパーミヤン石窟の写真や平易なポスターとクイズも交え紹介した。後者は、(1)無線タグとセンサーボードで環境問題を考えよう(前述の研究紹介「多点入力



「デジタル・シルクロード」の説明風景



デバイス(電子将棋盤)の研究」を参照。)(2)音でコンピュータを使っちゃおう、の2種類の模型を準備し、参加者に実際に触ってもらい考えてもらう展示としたが、多摩美術大学の協力も得た斬新なデザインもあいまって非常に好評であった。

父母も含め多数の参加者があり、子どもたちに学問の楽しさを伝えていくためにも大変有意義な2日間であった。

(成果普及課)

橋爪教授による
「さわって楽しむコンピュータ」の説明風景

外国人研究員の紹介

ソフトウェア研究系分散統合処理研究部門
日本学術振興会 外国人特別研究員

David Thevenin

(デビッド テブナン)

ジョセフ・フーリエ大学(フランス)にて情報科学を専攻。2001年ジョエル・クタク教授指導のヒューマン・コンピュータ・インタラクショングループにて、「ヒューマン・コンピュータ・インタラクションにおける適応:可塑の事例を通じて」の題目で博士号を取得。

2002年4月から日本学術振興会 外国人特別研究員として国立情報学研究所に滞在。



私は、日本学術振興会外国人特別研究員として2002年4月から2年間の予定でフランスから来ました。主な研究分野は、マルチターゲット・ユーザ・インターフェース(UI)の設計及び開発です。そこで、私は、マルチターゲットUIの開発プロセスを組み立てる一般的な枠組みを提案します。この枠組みは、モデルに基づく手法を採用し、設計者と開発者がUI開発プロセスを組み立てるのを補助するための参照ツールとして意図されています。このようなモデル化技術はしっかりとした設計方法を提供し適切なツールの開発への道を開きます。私達の提案する枠組みは、可塑的UI開発のために利用されています。この枠組みは、

ARTStudio(具現化及び翻訳により適応するスタジオを意味する)と名付けられたツールとして部分的に実装されており、NIIでこれをパピヨンプロジェクト用のWEBUIの生成のために利用しようとしています。そのプロジェクトの中で私は、辞書にアクセスするためのUI生成のためのツール及び手法を開発しています。私は今の研究を遂行するために2004年4月までNIIに滞在する予定です。今後新規分野に私の研究を適応する為にも、日本の研究者との共同研究を望んでおります。(原文英語)

2003年パピヨンセミナー開催

第4回パピヨンセミナーが7月3日(木)から5日(土)まで北海道大学で開催された。グルノーブル(フランス)で、NIIとGETA-CLIPSの間で日仏共同研究として始められたこのプロジェクトは、フリーで永続的な、ウェブ指向で、個別にチューニングすることができる環境を開発することを目的としている。現在本プロジェクトは中国語、英語、フランス語、ドイツ語、日本語、ラオス語、マレー語、タイ語およびベトナム語に取り組んでいる。今年、韓国、シンガポールおよび中国から数名の研究者が、本プロジェクトに参加した為、多言語のデータベースに中国語および韓国語を加えた。今回のセミナーはATR研究所、Yves Lepage氏を中心に、前回は上回る7カ国、30名の参加があった。日本側からは、NII、東京工業大学、早稲田大学、ATR研究所、NTT研究所から、またフランス側では、グルノーブル大学、モンペリエ大学、CNRS、パリ第7大学およびGETA-CLIPSからの研究者らが出席した。その他、カセサート大学(タイ)、モナッシュ大学(オーストラリア)、モントリオール大学(カナダ)およびシンガポールの研究者が参加し、成果と今後の計画方法について討論した。本セミナー中、招待講演を含む19の発表が行われ、その多くは、国際会議等で高い評価を受けるものであった。本セミナーで日本学術振

興会 外国人特別研究員である私および David Thevenin 氏は、自動的にエントリーの構造に順応する、辞書エントリーのオンライン汎用エディター上での研究成果を実証した。しかし、高度な研究内容にもかかわらず、サーバ管理の人材不足という点が、今後の課題となった。(原文英語)

(ソフトウェア研究系ソフトウェア工学研究部門
日本学術振興会 外国人特別研究員 Mathieu Mangeot)



辞書エントリーの汎用エディターのスクリーンショット

大学院生 紹介

中島 慶人 (なかじま ちかひと)

総合研究大学院大学 数物科学研究科
情報学専攻 博士後期課程学生

某研究所にて画像処理の研究を15年間実施してきています。その間、1年半ほどマサチューセッツ工科大学で画像処理研究を行うチャンスにも恵まれました。現在、人の視覚にせまる画像処理をめざし引き続き研究を続けています。

NIIへの入学動機は、職場の同期、同僚や友人らが各大学から論文博士を続々と取得し、大学の教鞭を兼任する者が増えてきたことも少なからず影響していますが、何より先研究生生活の通過点として現時点での考えを整理し博士号を取得するべきだと強く思うようになったからです。



そこで、学部と修士時代の恩師である上野教授に相談したところ、NIIへのお誘いをいただき、1年目の学生募集時は仕事の関係で身動きが取れなかったため、2年目に入学させていただくことになりました。

NIIでは、多方面で活躍されている先生方から刺激を受けながら、自分が理想としている画像処理を実現するための基礎となる成果をまとめるべく努力しています。

事業活動

NII-REO NII 電子ジャーナルリポジトリ

本年度よりサービスを開始したNII電子ジャーナルリポジトリ(NII-REO: NII Repository of Electronic journals and Online publications)は、複数の大学等やコンソーシアムが購読契約した電子ジャーナルのコンテンツを統合的に搭載し、安定的・継続的な提供を行うサービスです。

NII-REOの特徴

電子ジャーナル統合搭載	出版社より、複数の大学等又はコンソーシアムのメンバーが購読する電子ジャーナルのコンテンツ(論文本文、書誌情報)の提供を受け、統合して搭載します。
統一インターフェース	搭載したコンテンツを統一したインターフェースで提供します。
簡単検索	利用者にわかりやすい検索インターフェースを提供します。
横断検索	搭載された各出版社の電子ジャーナルを横断検索します。
アクセス制御	出版社からアクセス制御に関する情報(購読情報)を受け、搭載コンテンツに対して詳細かつ適切なアクセス制御を行います。

2003年7月より、Kluwer Onlineのコンテンツを搭載し、試験運用を行っています。検索の実行やアブストラクトの閲覧はどなたでも可能です。国立大学図書館協議会の会員館のうち、Kluwer Onlineの購読機関は本文まで閲覧することができます。

NII-REOへ購読契約コンテンツを搭載するには、出版社と大学等との搭載条件の合意とともに、大学等からNIIへのコンテンツ搭載申し込みが必要です。詳しくは、開発・事業部コンテンツ課画像コンテンツ係(reo@nii.ac.jp)へお問い合わせください。

URL <http://reo.nii.ac.jp/>

(コンテンツ課)



■ ドイツ国立科学技術図書館長、東京ドイツ文化センター図書館長の来訪

6月18日(水)、ドイツ国立科学技術図書館 Uwe Rosemann 館長、東京ドイツ文化センター(Goethe Institute Tokyo)Jens Boyer 図書館長 / 情報センター長及び同センター吉次氏が、国立情報学研究所を訪問しました。ドイツ国立科学技術図書館は、ハノーファー大学図書館を兼ねていて、従来からドイツにおける科学技術情報の拠点図書館として活動しています。

会談には、国立情報学研究所から根岸国際・研究協力部長、小西開発・事業部次長、倉西広報調査課長が臨み、当研究所概要について説明の後、特に、開発・事業における活動を中心に意見交換が行われました。

ローゼマン館長からは、ドイツのドキュメント・デリバリー・サービスである SUBITO や、新たな学術ポータルプロジェクトの VASCODA について説明があり、また、ドイツ国立科学技術図書館としても SPARC Europe の一員として、新しい国際的学術情報流通基盤整備を行っているとの説明があり、今後、両機関の協力の可能性について意見交換が行われました。



右からドイツ国立科学技術図書館 Uwe Rosemann 館長、東京ドイツ文化センター(Goethe Institute Tokyo)Jens Boyer 図書館長 / 情報センター長、同センター吉次氏

今回、ローゼマン館長は、6月16日(月)~17日(火)に開催された「第18回日独情報ドキュメンテーションパネル会合」ほかに参加するための来日でした。

(広報調査課)

■ 韓国国立中央図書館からの来訪

6月20日(金)、韓国国立中央図書館から、申鉉泰 閲覧奉仕課長、李仙 図書館機械化室副室長、車敬禮 支援協力課司書主事補が国立情報学研究所を訪問しました。今回の来日は、国立国会図書館の国際協力活動の一環として、国立国会図書館が招聘したものです。

会談には、国立情報学研究所から倉西広報調査課長、船渡川広報調査課課長補佐、茂出木コンテンツ課課長補佐、鶴澤コンテンツ形成管理係長が臨み、当研究所概要について説明の後、特に、目録所在情報事業を中心に熱心な情報交換が行われました。

韓国国立中央図書館と当研究所は本年1月15日に相互協力の覚書を交わしており、7月を目途に両機関の MARC を相互の業務に利用する体制を構築しています。

(広報調査課)



右から申鉉泰 閲覧奉仕課長、通訳、李仙 図書館機械化室副室長、車敬禮 支援協力課司書主事補

平成15年度 軽井沢土曜懇話会

軽井沢の国際高等セミナーハウスにおいて7月26日(土)に平成15年度軽井沢土曜懇話会の第3回を開催しました。その講演の様子を紹介します。

第3回：7月26日(土)「源氏物語の色」

染織家

吉岡 幸雄氏

(よしおか さちお)

江戸時代から続く京都の染屋に生を受けた吉岡氏は、1988年に「染司よしおか」五代目当主を嗣いで、現在、植物染による日本の伝統色の再現に取り組んでおられます。「自然界の植物より色素を汲み出す植物染を専らとする立場から、『源氏物語』を読むと、王朝人の色彩感が、眼に浮かぶようになってきます。」と言われる吉岡氏は、今回のご講演では『源氏物語』の中の「若紫」「玉鬘」などのいくつかの帖を取り上げ、そこにあらわされた麗しい季の彩りについて、実際に再現した衣裳などを示しながらお話をしてくださいました。

染めの原料となる植物やそれによって染められる色見本の展示、そして染めの工程のビデオ放映など、吉岡氏



の世界が展開され、日本の伝統色の見事な美しさを知ることができました。

(成果普及課)

HOT NEWS
2

大学図書館等関連事業説明会(NII Library Week 2003)の開催について

大学図書館等と連携して推進する各種事業についての説明会を、平成15年9月から10月にかけて全国5カ所にて開催します。

本説明会では、大学図書館等関連事業に関する今後の方針と併せ、GeNii(NII学術コンテンツ・ポータル)やNII-REQ(NII電子ジャーナルリポジトリ)等のサービスについて御紹介するとともに、目録所在情報サービス、メタデータ・データベース共同構築事業、研究紀要公開支援事業などの最新の話題をお知らせします。

【大学図書館等関連事業説明会(NII Library Week 2003)開催予定】

平成15年 10月 10日(金)	北海道地区	北海道大学 附属図書館4階会議室
平成15年 9月 30日(火)	東北・関東地区	学術総合センター 一橋記念講堂
平成15年 10月 7日(火)	中部地区	名古屋大学 大学院多元数理科学研究科大講義室
平成15年 10月 3日(金)	近畿・中国・四国地区	キャンパスプラザ京都(京都駅前)
平成15年 10月 2日(木)	九州地区	九州大学 附属図書館視聴覚ホール

本説明会への参加には事前の申し込みが必要です。参加申込方法及びプログラムの詳細等については、次のホームページをご覧ください。

URL http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/nlw_2003_index.html

(コンテンツ課 / アプリケーション課)

平成15年度 NII市民講座「8語でつかむ情報学」

国立情報学研究所では、研究所の研究活動や研究成果を、分かりやすく広く社会の方々に知っていただくために、新たに市民講座を企画しました。平成15年度は、「8語でつかむ情報学」というテーマで、情報学の基礎から応用に関わるキーワードを8語選び、それぞれのキーワードを中心に幅広い解説を行うというスタイルで開催します。

全8回のスケジュール、講演テーマ、講師等につきましては、以下のURLをご参照ください。

URL http://www.nii.ac.jp/hrd/HTML/OpenLecture/NII_shiminkouza.html

第1回：7月11日(金)

「ユビキタス社会－政治、経済、教育などを電子ネットワーク上で展開するには?－」



国立情報学研究所 人間・社会情報研究系 教授(就任予定)

東倉 洋一 (とうくら よういち)

1972年東京大学大学院工学系研究科計数工学専攻修士課程修了。日本電信電話公社に入社、音声聴覚情報処理の研究に従事後、AT&Tベル研究所客員研究員、関西文化学術研究都市の(株)国際電気通信基礎技術研究所の設立に参画、(株)ATR視聴覚機構研究所聴覚研究室室長、(株)ATR人間情報通信研究所代表取締役社長を経て、日本電信電話株式会社において基礎研究所長、コミュニケーション科学基礎研究所長、先端技術総合研究所長として、情報通信の基礎・先端技術 R&Dの運営に従事。2003年7月にNTT R&Dフェロー。10月に本研究所教授就任予定。

講演は、「ユビキタス」の語源からはじまり、ユビキタス社会を実現する要素技術の進展と整備状況、その社会的影響、人間の感覚にもたらす変化、地球ブレインの活用への期待、と多岐にわたる内容で、「未来図」をビデオ上映で紹介する

一方、ユビキタス社会の光と影の両側面にも触れるなど多元的な視点からの解説で、参加者からも大変分かりやすく興味深い内容だったと好評でした。

第2回：8月25日(月)

「デジタルライブラリ－世界中の情報を瞬時に検索・入手するには?－」



国立情報学研究所 情報学資源研究センター長 / 教授

安達 淳 (あだち じゅん)

1981年東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻博士課程修了。東京大学助手、助教授を経て、1986年学術情報センター助教授。2000年より現職。電子図書館、分散情報システム、データベース、情報検索等の分野でテキストを中心とする電子コンテンツ活用技術に関する研究に従事。XMLなどの半構造データやWWWコンテンツを対象とし、また情報システムとしては電子図書館やNII学術ポータル構築を行ってきた。

デジタルライブラリは何を蓄積し提供するののかについて、ネット上に見える代表的な電子図書館の事例から、インターネットを電子図書館にするためのアプローチとしてサーチエンジンを例に電子図書館を支える研究・技術の紹介、そして大学における「電子図書館」の実例としてNIIの提供サービス

や電子ジャーナルの現状と課題等について解説と考察を交えながら講演されました。技術的側面のみならず社会制度面での様々な課題も含めて盛りだくさんの内容を分かりやすく整理して大変有意義であったとの意見が寄せられました。

なお、第1回及び第2回ともに、講演と併せて「IT・パソコン相談室」を併設し、総合研究大学院大学情報学専攻の大学院生が相談員となって、参加者からの質問や相談に答えていました。

(成果普及課)

トピックマップに関する特別講演会の開催

6月11日(水)15時から17時まで、国立情報学研究所12階会議室において、Steve Pepper氏を講師に迎え、トピックマップに関する特別講演会を開催しました。

Pepper氏は、マークアップ言語に関する国際規格を検討しているISO/IEC JTC1/SC34/WG3委員長(Convenor)、XML(XML Topic Maps)1.0のエディタ、“The TAO of Topic Maps”の著者であり、ノルウェーOntopia社のCEOを務められ、トピックマップに関する第一人者として活躍されています。

トピックマップはRDF(Resource Description Framework)群と並んで、セマンティックWebの重要な要素として広く考えられている、情報の標準化に関する国際規格の一つです。

当日は、当研究所の研究者や大学院学生に加え、日本大学、日本電気の研究者も参加して活発な意見交換が行われました。

(広報調査課)



メタデータ及びメタデータ・ハーベスティングに関する特別講演会の開催

6月16日(月)15時から17時まで、国立情報学研究所12階会議室において、米国国立ロスアラモス研究所(Los Alamos National Laboratory)研究員Jewel Ward氏を講師に迎え、メタデータ及びメタデータ・ハーベスティングに関する特別講演会を開催しました。

Ward氏は、ロスアラモス研究所の研究成果レポジトリ構築を担当され、米国におけるメタデータに関する取組みの中心メンバーの一人です。

講演は3部からなり、ロスアラモス研究所の概要、メタデータの概要及び米国におけるメタデータの現状、Open Archive Initiativeに登録されたメタデータの計量分析的研究について詳細な説明がありました。

当日は、当研究所の研究者や大学院学生に加え、インフォコム、富士通の研究者も参加して活発な意見交換が行われました。

(広報調査課)



NII掲示板

人事異動(平成15年8月)

客員部門(平成15年8月1日付)

土屋 俊 実証研究センターバーチャルライブラリ研究室客員教授
本務先:千葉大学文学部教授

千葉 滋 ソフトウェア研究系大規模ソフトウェア研究部門客員助教授
本務先:東京工業大学大学院情報理工学研究所助教授

平成15年度NII市民講座「8語でつかむ情報学」

- 第4回「バイオインフォマティクス」：平成15年10月16日(木)18:30～19:35 学術総合センター12階 会議室
- 第5回「アルゴリズム」：平成15年11月27日(木)18:30～19:35 学術総合センター12階 会議室
- 第6回「プロトコル」：平成15年12月18日(木)18:30～19:35 学術総合センター 2階 中会議場
- 第7回「インタフェース」：平成16年 1月15日(木)18:30～19:35 学術総合センター 1階 特別会議室
- 第8回「データベース」：平成16年 2月26日(木)18:30～19:35 学術総合センター 1階 特別会議室

参加申込など詳細はホームページ URL http://www.nii.ac.jp/hrd/HTML/OpenLecture/NII_shiminkouza.html でお知らせしています。参加は無料です。皆さまの参加をお待ちしています。

平成15年度軽井沢土曜懇話会

国際高等セミナーハウス(長野県軽井沢町)を会場に開催します。

- 平成15年10月25日(土) 大津 純子 氏(ヴァイオリニスト)、岡田 知子 氏(ピアニスト)
- 平成15年11月 8日(土) 羽鳥 光俊 (国立情報学研究所教授/開発・事業部長)

参加申込など詳細はホームページ URL <http://www.nii.ac.jp/hrd/HTML/Karuziwa/> でお知らせしています。

総合研究大学院大学情報学専攻(博士後期課程)学生募集日程

【平成16年度4月入学(第2回募集)】

- 募集人数：6名
- 出願期間：平成15年12月 8日(月)～12日(金)
- 選抜期日：平成16年 1月26日(月)～2月13日(金)のうち1日
- 合格発表：平成16年 2月下旬
- 入学手続：平成15年 3月10日(月)～14日(金)

募集要項の詳細については URL <http://www.nii.ac.jp/daigakuin/index.html> でお知らせしています。

「デジタル・シルクロード」奈良シンポジウム

- 日程：平成15年12月10日(水)～12日(金)
- 会場：奈良県新公会堂(奈良市春日野町101)
- 主催：ユネスコ(国連教育科学文化機関)、日本ユネスコ国内委員会、財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)、国立情報学研究所

詳細についてはホームページ URL <http://www.nii.ac.jp/dsrnara/index-j.html> でお知らせしています。

NTCIR-4: The 4th NTCIR Workshop: Evaluation of Information Retrieval, Text Summarization and Question Answering

情報検索、テキスト要約、質問応答などの情報アクセス技術の評価ワークショップ。参加研究グループは、共通の大規模なデータセットを用いて研究を進め、成果を共通の基盤の上で相互比較するとともに、研究者間の自由な討論や研究アイデア交換の場となることを目的とした国際ワークショップです。成果報告会および会議論文集の公用語は英語です。

- 平成15年3月31日：文書データ配布開始
- 平成16年5月下旬：成果報告会
- 主催：国立情報学研究所
- 詳細についてはホームページ URL <http://research.nii.ac.jp/ntcir/ntcir-ws4/> でお知らせしています。
- 【問い合わせ】神門典子 人間・社会情報研究系助教 Email:kando@nii.ac.jp



国立情報学研究所の研究・事業活動について詳しくはホームページもご覧ください。
<http://www.nii.ac.jp/index-j.html>